



Design



～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～

発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

地域包括ケア病棟広報誌Design号外13号です。表面は、“彩り”で受け入れした事例の紹介です。裏面は、老健やましろからのお知らせです。令和元年も引き続きよろしくお願ひします。（地域医療連携室 室長 南出 弦）

地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れした事例の紹介（第32回）

～ 自宅退院に向け、在宅のケアマネジャーと連携しました ～

他病院より自宅退院準備のため受け入れしました。受け入れ前は食事量が少なく点滴をされていたが、ご希望の自宅退院を目指すため、食事量が少ない原因を探りました。地域包括支援センターの方に他病院入院以前の食事内容を確認し、入院前よりもともと食欲が少なく栄養補助食品を摂取しておられたことがわかりました。そして、飲み込む力の評価を行いました。結果、飲み込む力はさほど低下していないことがわかり（お粥や刻み食が摂取可能）、入院中に歯科の先生に義歯の調整をして頂くことで食事量がUPしました。ご家族・ケアマネジャーと相談し、福祉用具やデイサービスの準備し、自宅退院となりました。

（地域医療連携室 ソーシャルワーカー 中野 明子）

*

退院までに病院へ複数回出向き、歩行状況の確認などを行いました。ご本人は「自宅に帰ってゆっくりしたい。デイサービスには行きたくない」との訴えが何度もありましたので、デイサービス初日は、皆ひやひやしておりましたが、お帰りの際には「ここで友達が出来たら良いな」と筆談で伝えて下さいました。今では、食事もお粥から普通のごはんになりました。ご本人の目標が近所の書店に歩いて行きたいとのことで、先日より半日のリハビリへ行かれています。初日は頑張り過ぎて、翌日足元がふらふらになっておられましたが、目標に向かって頑張ると、ジェスチャーで伝えて下さいます。

（かんでんライフサポート高の原ケア ケアマネジャー 石橋 恵三子）

「山城ケア病棟」と検索下さい。

地域包括ケア病棟広報誌“Design”のバックナンバーがご覧頂けます。もちろん、スマホでもご覧頂けますので、お気軽にアクセスして下さい。



老健やましろより

～ 老健はいつまでいられるの…？ ～

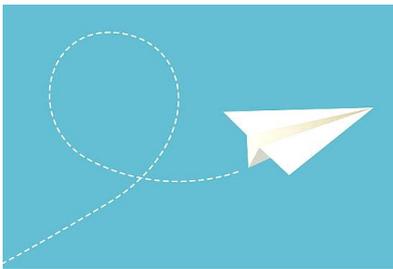
最近、入所相談の時に、「他の老健では3ヶ月で退所しなければならないと言われたんですが、やましろさんも3ヶ月で退所しないといけませんか？」という質問をいただくことが多くなっています。先日の『“老健やましろ”と地域包括ケア病棟“彩り”を学ぶ会』でも、地域のケアマネジャーさんより同じような質問をいただきました。

平成30年4月の介護報酬改定で、介護保険法に、老健が在宅復帰・在宅療養支援のための地域拠点となる施設であることが明確化され、介護老人保健施設は、本来の老健としての役割を果たすため、様々な指標で評価されることとなりました。そのため、日本全国の老健が、それぞれの地域でどのような役割を果たしていかなければならないのか、どのように変わらなければならないのか模索しているところです。

当施設も、平成30年度からは在宅復帰に力を入れ、この地域の利用者様を幅広く受入れることができるよう努めています。しかし、この地域の特性や、その利用者様・家族様の事情により在宅復帰が困難な方も大勢いらっしゃいます。そのような場合には、特養等、それぞれの利用者様の状態に適した他施設への入所申し込みの支援をさせていただいております。当施設も、このような取組の中で、平均在所日数が、この1年間で671日⇒372日と急激に短くなっています。入所期間は原則3ヵ月毎の更新となりますが、それぞれの利用者様の状況に合わせて柔軟に対応させていただいておりますので、ご相談ください。(老健やましろ 管理部長 三村 裕子)

地域医療連携室より

～ Carry That Weight ～



仕事をする上で、しなければならないことや周囲から期待されることがあると思うのですが、私自身は、「しなければならないこと」ではなく、「したいこと」として前向きに取り組むよう日頃から心がけています。そして、結果がうまくいけば報われるのですが、いつもうまくいくとは限りません。こんなはずじゃ…、と思う時もあり、そんな時は、文字通り凹みます。

私が所属している地域医療推進部には中村副部長（上司）がいますが、判断に迷う時や新しいアイデアが浮かんだ時は相談します。上司というより、“仲間”。相談するとモヤモヤが晴れることがあります。病院や地域を良くしたいという思いは共通していますので、意見が違っていても問題ありません。そして、仲間の存在が課題を解決する大きな力になっていることを実感しています。

今、判断に迷ったり凹んでいる方はひとりで背負わずに身近な仲間に相談して下さい。良い結果が出ることに越したことはないのですが、たとえ、良い結果が出なくても、仕方ないと思える納得のいく選択ができますように。そして、地域医療連携室にもお気軽にご相談下さい。皆さんと同じく、この地域を良くしたいという共通の思いを持った“仲間”です。一人で背負われている重荷を下ろすお手伝いができるかもしれません。(地域医療連携室 室長 南出 弦)